

第二回学生観光論文コンテスト

観光立国で日本を元気にする方策について、私の提案

観光情報提供のありかた

—設備としての Wi-Fi と情報の質としての Couchsurfing—

学習院大学法学部政治学科 3年 岡本成敦

学習院大学法学部政治学科 3年 長谷川裕

目次

1. はじめに
2. 問いの背景
3. アンケート調査
 - 3.1. 概要
 - 3.2. 調査結果
 - 3.2.1. 街頭でのアンケート調査
 - 3.2.2. Couchsurfing でのアンケート調査
4. 情報入手の手段としての Wi-Fi
 - 4.1. 情報の入手源としての有用性
 - 4.2. 使用場所
 - 4.3. 満足度
5. Couchsurfing 利用者との比較
 - 5.1. アンケート結果
 - 5.2. アンケート結果からの分析—情報取得手段としての Couchsurfing
 - 5.3. 個々にあったリコメンド機能としての Couchsurfing—Masato 氏へのインタビュー
6. 結論

1. はじめに

観光立国を目指す日本政府だが、昨年の震災や円高の影響で日本に来た外国人観光客の数は大きく落ち込んだ。そして今年に入ってから尖閣諸島問題で中国からの観光客も大きく減少している。こうした中で、昨今、観光庁や各地方自治体が力を入れている取り組みとして観光の ICT 化の推進、特に無料公衆無線 LAN 環境の提供が注目を浴びている。例えば京都市は、観光客がいつでも情報を入手できる環境を整えるとして、公衆無線 LAN 整備事業「京都どこでもインターネット」を展開し、市内 630 ヶ所に Wi-Fi スポットを設置することを今夏決めた¹⁾。これらの取り組みは、外国人に便利な Wi-Fi²⁾を整備すれば、訪日外国人旅行者の満足度を向上させ、リピーターの増加及び訪日旅行の評判が向上するという前提に基づいて行われている。

しかしこれは本当に正しいのだろうか？私たちは各々がバックパッカーとして各国を一人旅し、Couchsurfing³⁾という SNS (social networking service) を国内外で利用した経験から、この Wi-Fi という設備は、外国人旅行者を呼ぶための必要条件ではあるが、十分条件ではないのではないかという疑問を抱いた。なぜなら、私たちは旅行時、たしかに Wi-Fi を使用していたが、それは主に SNS 等を通じての情報の交流であり、ネット上にある、観光情報を取得する事が主目的ではなかったからだ。

本研究では訪日外国人へのアンケート調査によって明らかになった、情報を取得出来る設備である Wi-Fi の問題点の指摘及び、設備ではない情報の中身の部分として個人に合った情報を提供することについて述べる。

以下、第二章では問いの背景として私たちの経験を述べ、第三章ではアンケート調査の結果を図示して結果を概観する。第三章では、訪日外国人旅行者誘致のための Wi-Fi 設置の問題点を指摘し、第四章では Couchsurfing ユーザーとそうでない訪日外国人観光客の東京滞在中の訪問地、情報取得方法の違いを分析する。以上これらをふまえ第五章では、町の地域の情報プロフェッショナルとしてのホテル従業員養成について述べる。

2. 問いの背景

Wi-Fi という設備は、外国人旅行者を呼ぶための必要条件ではあるが、十分条件ではないのではないかというこの疑問の背景には私達のバックパッカーとして東アジア・東南アジアを旅行した経験がある。

私たちは各々、各長期休みの折に、バックパッカーとして海外に長期の旅行に出る。今まで旅行して来た国としては、ラオスやタイに始まり、台湾までに及ぶ。それも比較的一般の観光客が足を運ばない、いわゆる田舎まで行く事がある。その折に、多くの気づきを得た。一点目は、都市はもちろん、田舎といえども宿に必ずと言ってよいほど Wi-Fi が

完備されていることだ。その Wi-Fi に自分の持っている端末を接続し、インターネットを通じて現地の人と繋がり、ガイドブックには載っていない美味しいレストランや現地の歴史を教わることができた。二点目は、現地人ないし、現地に行った事がある人の情報は極めて有用であるという事だ。Couchsurfing を利用する事によって現地のインターネット上にもない現地の情報をリコメンド付きで得る事が出来た。現地のスーパーで日用品を買う事も出来たし、レートの良い両替所や現地に住む日本人を訪ねる事だって可能にしてくれた。現地に住む住民からの現地の情報ほど正確で助かるものはないだろう。以上二点のような気づきが本研究の背景としてある。

3. アンケート調査

本章では私達がバックパッカーとして旅行をした経験を一般化するために 10/20~11/17 に行ったアンケート調査の結果を概観する。

本アンケートでは2つの方法で調査を行った。一つは街頭での聞き込み調査であり、浅草周辺、池袋周辺で行った。また外国人観光者が多く泊まっている上野の旅館「澤の屋」の全面協力のもと、そちらの旅館でも聞き込み取材をさせていただいた。そして、街頭での聴きこみ調査とは別に Couchsurfing というサービスを利用して東京に滞在しているすべての外国人旅行者にメールをし、アンケート調査を行った。調査数は街頭でのアンケート調査が 37 人、Couchsurfing でのアンケート調査が 49 人であり、合計 86 人のアンケート結果を基に分析した。

3.1. 概要

アンケートの構成は以下の通りである。

- ① 東京に来る前に訪問地についての情報取得に何が役立ったと感じましたか。

What source(s) do you think were helpful in obtaining information about your destination prior to coming to Tokyo?

- ② 東京での滞在中、訪問地についての情報取得に何が役立ったと感じましたか。

What source(s) do you feel were helpful in obtaining information about your destination while staying in Tokyo?

- ③ 東京での滞在中、どのような情報が必要でしたか。

What kind of information did you need while staying in Tokyo?

- ④ 東京での滞在中、wifi に満足したか（東京での滞在中、Wifi の整備状況について満足したか。）

Did the Tokyo Wifi service satisfy you?

- ⑤ 東京での滞在中、いつ Wifi を利用したか。

When did you use Wifi while visit to Tokyo?

- ⑥ 東京での滞在中どこを訪問しましたか。

Where did you visit while in Tokyo?

1 番と 2 番目の質問では訪日前と後で情報取得源が変化するかどうか、またガイドブックとインターネットどちらに彼らが重点を置いているのか把握することを目的とした。

3 番目の質問では彼らがどのような情報を求めているか、そして 4 番目と 5 番目の質問では東京の Wi-Fi サービスへの満足度について彼らがどのように考えているのか把握することを目的とした。特に 4 番目と 5 番目の質問について私たちは経験から、Wi-Fi に彼らは不満足であり、またホテルでの利用が大半であろうと仮説を立てた。実際に東南アジア等でゲストハウスと呼ばれるようなバックパッカーが集まる宿に泊まってみると、皆タブレット端末やスマートフォンなどで宿の Wi-Fi を使用しており、そこで SNS を用いて近況報告や情報交流をしている。しかしこのような光景は日本の宿ではあまり見受けられず、また無料の Wi-Fi を飛ばしている宿も少ないため外国人旅行者は不満に思っているのはいか。そこでこの仮説を検証する意味もあり、この設問を立てた。

6 番目の質問では外国人にとって一番多く使われている「Lonely Planet Tokyo」のマップに記載されている都市以外を訪れているのかどうか把握することを目的とした。

3. 2. 調査結果

3. 2. 1. 街頭でのアンケート調査

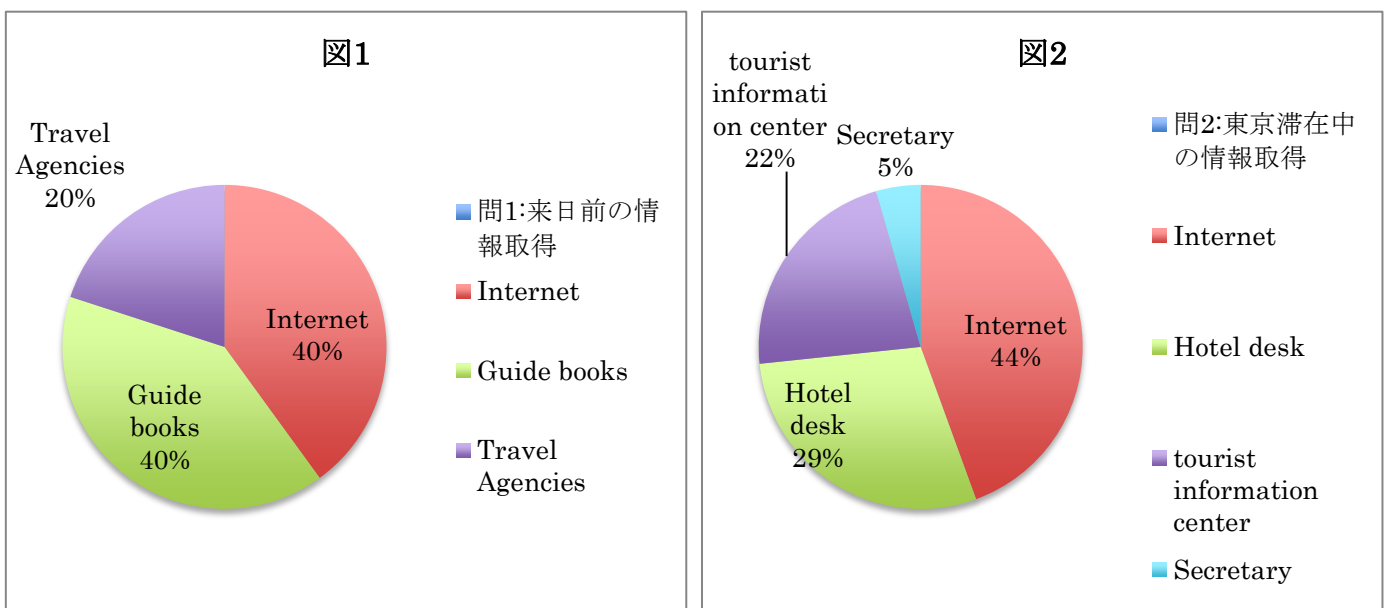


図3

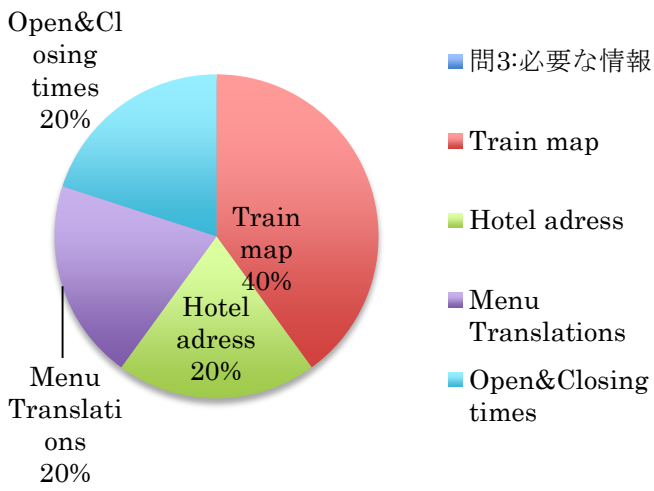


図4

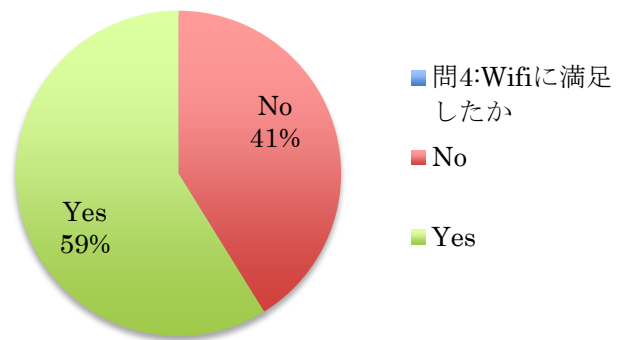


図5

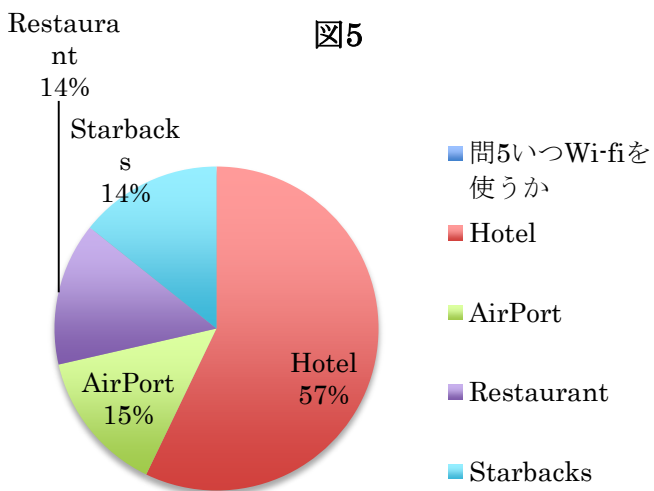
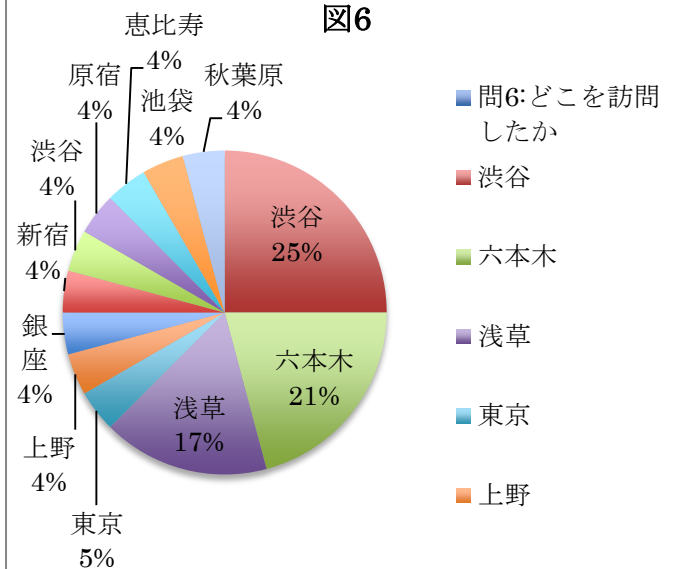


図6



3.2.2. Couchsurfing でのアンケート調査

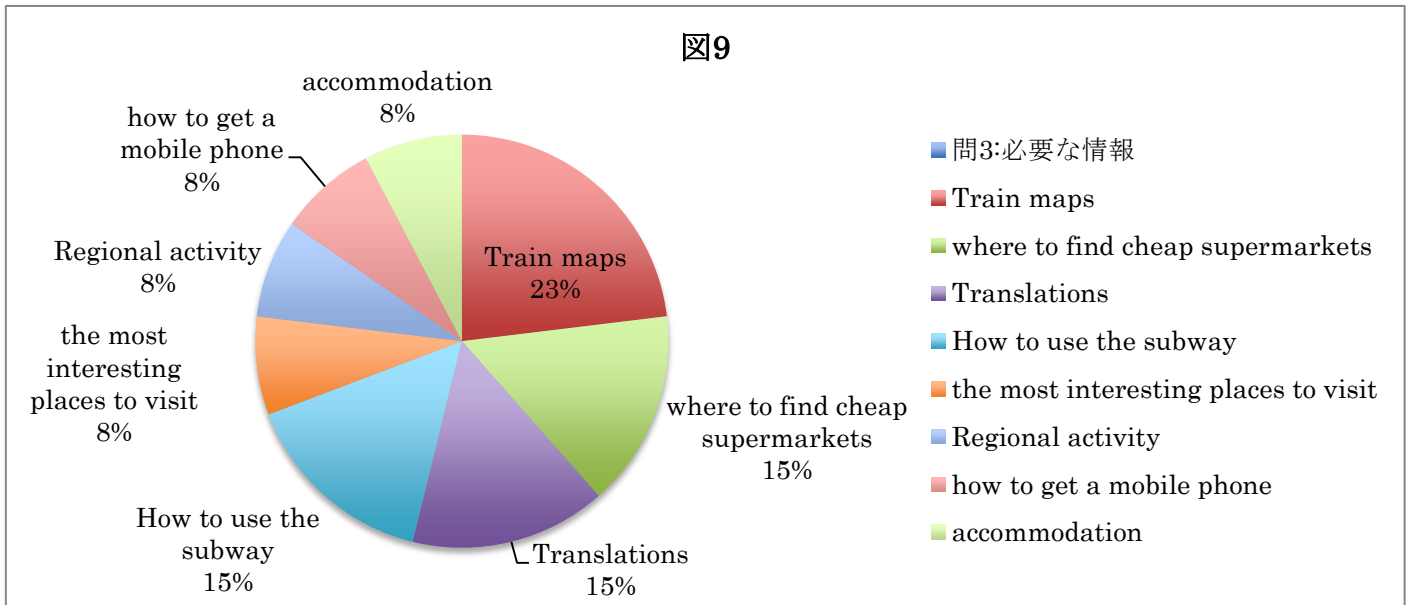
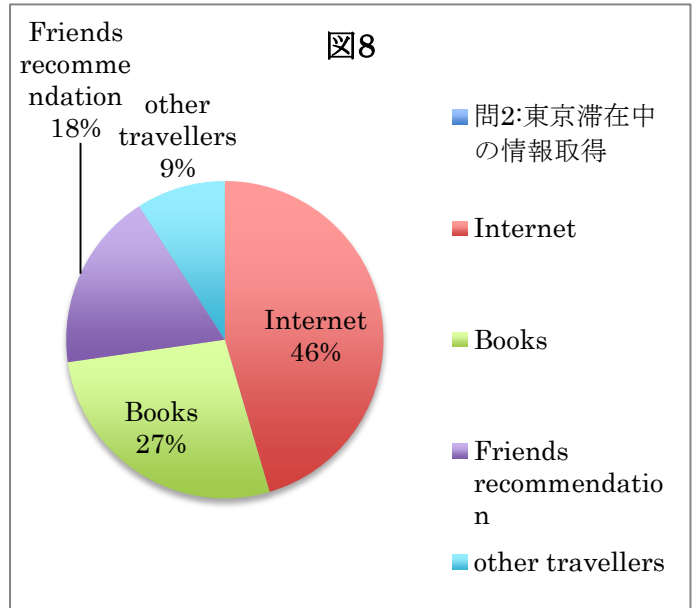
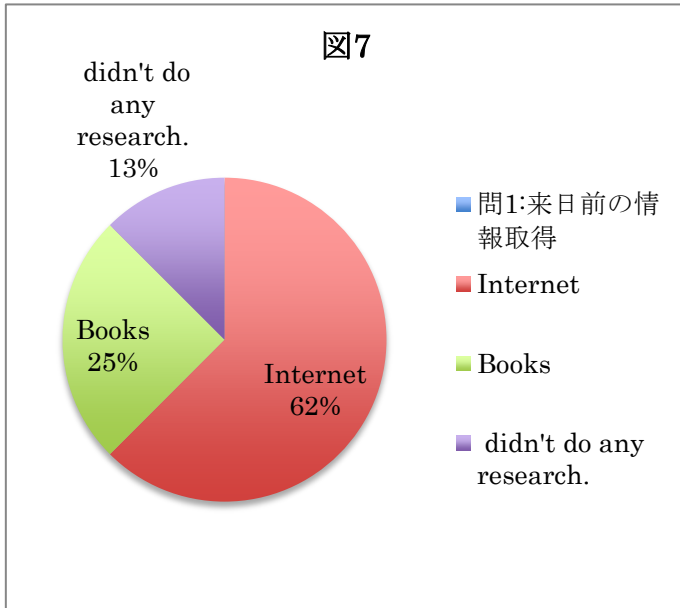


図10

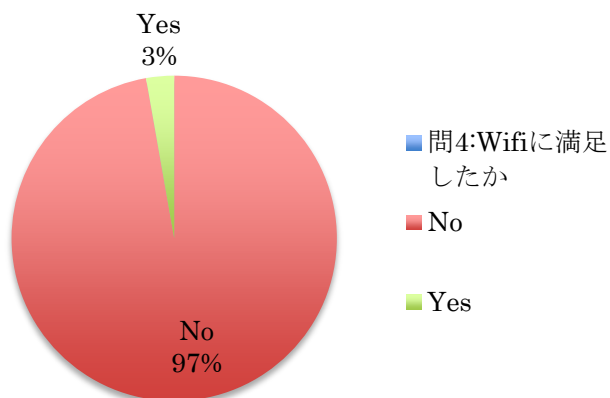


図11

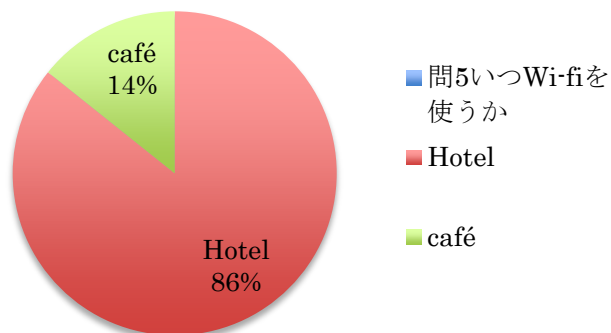
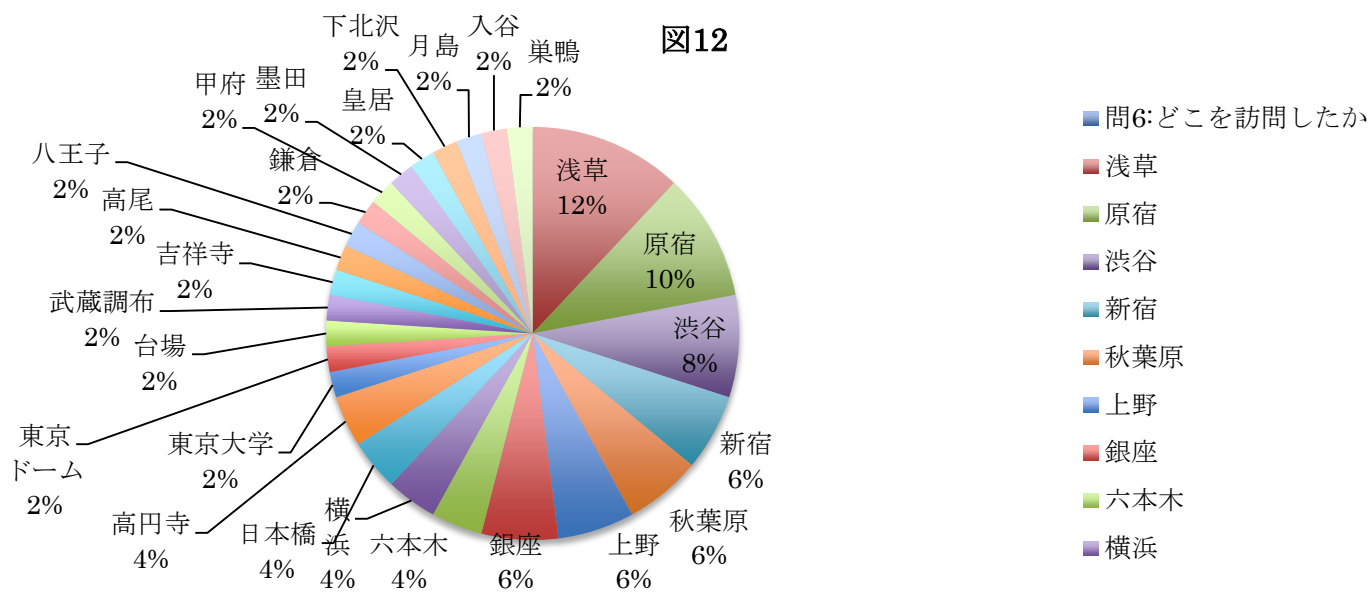


図12



4. 情報入手の手段としてのWi-Fi

前章のアンケート調査ではWi-Fiについて以下の3点が明らかになった。

第一点目は、日本滞在中の情報の入手源として、街頭調査と Couchsurfing での調査で比率は異なるものの、インターネットが重視されていることからWi-Fiの整備は情報の入手源として重要であると考えられること

第二点目は、外国人観光客のWi-Fiの使用場所は、街頭調査と Couchsurfing での調査ともにホテルが大半であること

第三点目では、Wi-Fi の満足度については街頭調査では満足している者もいるが不満を持っている者も多く、Couchsurfing での調査では Wi-Fi について皆、満足に感じていないこと。

本章では、この三点に対して日本の観光の ICT 化の推進の現状分析をふまえながら、何を改善すべきなのか考える。

4.1. 情報の入手源としての有用性

まずは第一点目と第二点目について検証をしていく。情報の入手源については、観光庁が発表した訪日外国人の消費動向―訪日外国人消費動向調査結果及び分析―から詳しく読み取ることが出来る。出発前に得た旅行情報で役に立ったものは、ガイドブックでは「ロンリープラネット」 6.9%、「ミシュラン」 1.0%、「その他旅行ガイドブック」が 13.9%であり、「日本政府観光局の案内所」の選択率は 6.3%、「日本政府観光局ホームページ」の選択率は 10.9%。インターネット媒体も幅広く利用されており、中でも「個人のブログ」(24.5%)を挙げる回答が多い。日本滞在中に得た旅行情報で役に立ったものでは「インターネット(パソコン)」(42.3%)の選択率が高く、次いで「インターネット(スマートフォン)」(23.0%)、「日本在住の親族・知人」(22.6%)の選択率が高い⁴。これは私たちのアンケート結果を裏づけるものと考えられるだろう。出発前にはガイドブックや、インターネットを重視しており、日本滞在中ではインターネットの選択率が高い。

特に日本滞在中のインターネット利用率が高いのであれば、Wi-Fi を整備することは、外国人観光客誘致にとって有効であることが考えられるだろう。

4.2. 使用場所

では次に、使用場所について考えてみる。まずは観光庁の ICT 化の推進における Wi-Fi の項を参照する。観光庁では、訪日外国人旅行者の受入環境整備事業の一環として観光の ICT 化を推進することにより、訪日外国人旅行者の受入環境におけるバリアの解消を促進するとともに、訪日外国人旅行者の満足度を向上させ、リピーターの増加及び訪日旅行の評判の向上を目指すため、平成 22 年 12 月に「観光 ICT 化促進プログラム」を策定した⁵。その「観光 ICT 化促進プログラム」の中で Wi-Fi は以下のように述べられている。

訪日旅行の玄関口となる主要な国際空港・港湾や外国人向け観光案内所など、訪日外国人の集まる公共空間において、無料の公衆無線 LAN の整備を含む訪日外国人のインターネットアクセスの容易化を推進する。平成 23 年中に以下の公共空間で訪日外国人のインターネットアクセスの容易化を実現し、日本においてインターネット利用環境が整っていることを海外に向けて情報発信する。

- ① 主要な国際空港の国際線ターミナル（成田、羽田、関空、中部、千歳、福岡、那覇）
- ② 海外旅客の多い港湾の旅客ターミナル（博多、下関、大阪）
- ③ 外国人向け観光案内所（V 案内所：全国 304 カ所）のうち 100 カ所程度

しかし、ここで私達が行った調査を参照してみよう。問 5：いつ Wi-Fi を使用したのか？の項を参照すると、街頭調査では、一位にホテル(57%)、二位に空港(15%)、三位にレストラン(14%)と続き Couchsurfing での調査では、ホテルが圧倒的に多く(86%)を占めている。実際に彼らのコメントでも

- I've only been using it at hostels, where it's free, but not that fast usually.
- Wherever I slept had Wi-Fi, then if I needed Wi-Fi while sightseeing I looked around a for a cafe.

というように、基本的には宿で Wi-Fi を使用し、観光中に必要になったら、カフェ（スターバックス）などの Wi-Fi を用いるようである。

このことから考えられることは、彼らは滞在先のホテルでのインターネット利用を求めており、公共空間での使用をあまり望んでいないということだ。観光庁は外国人観光客を誘致するために Wi-Fi を空港や観光案内所などの公共空間に整備しようとしているが、本当に必要なのは宿への Wi-Fi の整備ではないか。

4.3. 満足度

満足度に関しては僕達のアンケート調査では問 4: 東京の Wi-Fi に満足したか？の項を参照すると、街頭調査では、Yes(59%)、No(41%)、Couchsurfing での調査では、Yes(0%)、No(100%)と、対象者によって明確な差が出た。

まず留意しなければいけない点は満足と答えた人が、私達がアンケート調査を行った「澤の屋」のように Wi-Fi がすでに宿に完備されている宿に宿泊していることだ。そのような宿に泊まっていなかったり、Couchsurfing を利用しているため一般のホテルの Wi-Fi を使用できなかった人たちは、明確に不満を訴えている。

では不満と考えている人たちがどのように考えているのか。以下の二人の旅行者のコメントを参照しよう。

- No. Tokyo Wi-Fi is horrible. They have all these Wi-Fi signs everywhere but none is for free / for visitors. You have to be on NTT DoCOMo, SoftBank or other company on contract to access Wi-Fi. Free Wi-Fi is rare and made matters quite

hard at the beginning.

- I am not satisfied with the Wi-Fi in Tokyo, there isn't any for free in public places.

このコメントから外国人が使う上での日本の Wi-Fi 整備状況として3つの問題点が考えられる。まず無料であるものが少ないこと。そして無料であっても NTT や SoftBank など携帯電話会社のもので、その会社の携帯電話を利用していないと使用できないこと。そして利用手続きが煩雑であるということ、が考えられる。そこで外国人向けの Wi-Fi サービスを調べてみると以下の様な特徴があった⁶。

- ① 訪日外国人向け Wi-fi サービス「Wi2 300」では、クレジットカードが必要であり、PC (Web) 等にて予めチケットを購入しておく必要がある。
- ② コンビニ・キオスク端末による Wi-Fi オンラインチケット販売では「現金」で ID/Password チケット購入が可能だが、特定のホームページにアクセスする必要がある (なんらかの回線でインターネットへアクセスしなければならない。) さらに、身元確認が可能なメールアドレス (フリーメールアドレスは不可) が必要。つまり、多くの外国人旅行者は利用できない現状がある。
- ③ 各自治体の Wi-Fi サービスでは、観光案内所で ID, Pass を入手する必要がある。

しかし、このような問題点があるからといって東京中に訪日外国人がアクセスしやすい無料 Wi-Fi を張り巡らせるというのはコストの面でも良い選択肢ではない。ここで注目したいのは SAKURA Hotel や澤の屋のように Wi-Fi がすでに宿に完備されている宿に宿泊している旅行者は、それだけで東京の Wi-Fi に満足していると答えている点だ。やはり宿への Wi-Fi の整備は有効であると考えられるだろう。

5. Couchsurfing 利用者との比較

本章では、訪日外国人観光客が東京での滞在中、どこからの情報をもとに、どのような場所を訪れているのかということ、3章のアンケート結果の分析から Couchsurfing を利用しない訪日外国人観光客と Couchsurfing を利用している訪日外国人観光客とに分類し、それらの違いを明らかにしたい。また、3章で行ったアンケートとは別に、Couchsurfing のヘビーユーザーである Masato 氏⁷にインタビュー調査を行った。

5.1. アンケート結果

- (1) Couchsurfing を利用しない訪日外国人観光客

訪問地では、浅草や六本木、上野などといった、外国人旅行者にとって一般的に有名なガイドブック『Lonely Planet Tokyo』において太字で紹介されている地域⁸を出ない範囲である。

(2) Couchsurfing を利用している訪日外国人観光客

訪問地では、『Lonely Planet Tokyo』において太字で紹介されている地域をこえてばかりが見られた。より具体的に言えば、武蔵調布や巣鴨、より遠方では、甲府などが挙げられる。

5.2. アンケート結果からの分析—情報取得手段としての Couchsurfing

3章のアンケートからは、Couchsurfing ユーザーではない訪日外国人観光客と Couchsurfing ユーザーのそれとでは、東京滞在中における訪問地という項目で特に違いがみられた。では、なぜそのような違いが見られたのだろうか。

東京滞在中の訪問地について、前者では、『Lonely Planet Tokyo』の中において、太字で紹介されている地域を出ない結果が出たのに対して、後者では広範囲に広がりがある。こういった広がりの違いの背景には、それぞれの東京滞在中における情報取得源に違いがあるのではないのだろうか。私たちが実施したアンケートを参照しつつ考えていきたい。

(図2, 8)東京滞在中に情報取得に役立ったものは何だったかという項目で、両者で共通するものとしてはやはりインターネットという回答が最も高く、前者では44%、後者では46%である。一方、インターネット以外では両者で異なった回答が得られた。前者ではホテルデスク 29%や観光案内所 22%が二位三位と続いているのに対し、後者では書籍 27%友人の勧め 18%他の旅行者 9%という結果である。

本アンケート結果と訪問地の広がりという違いを関連づけて考えたならば、前者と後者で、東京滞在中に役立ったとされる情報取得源からの、提供される情報の「性質」に違いがあるという事ではないだろうか。前者が受け取る情報というのは、一般的な「観光地」に関する情報であり、多くの観光客のニーズに当てはまる普遍的な情報と言えるのではないのだろうか。多くの観光客が経験しているだろうが、街の観光案内所などで得る情報はこういった類いのものであろう。つまり、名所といえばここである、有名な食べ物はこれである等がそれに当てはまる。一方で、後者の場合、個人の細やかなニーズに合った情報が提供されているのではないだろうか。その結果として、巣鴨や、武蔵調布、甲府に訪れるという結果になったと考えられる。では、誰がそのような個人の細やかなニーズに合った情報を提供しているのだろうか。前者の回答、書籍以外の回答結果と Couchsurfing の関係をベースに考えていきたい。

誰がそのような性質の情報を提供しているかという点では、(図8)から考えると、友人の

勧め、他の旅行者という回答については最も容易に想像出来るだろう。なぜならば、東京を訪れた事がある、もしくは東京在住の友人からリコメンドを貰うということは容易に考える事が出来るからである。これは他の旅行者、という回答にも当てはまることだろう。私自身、旅行先で宿や街の居酒屋等で出会い仲良くなった他の旅行者にリコメンドやレビューを聞くということはよくあることであるし、その方がガイドブックやウェブ上にある一方通行の情報よりも欲しい情報だけ、また、双方向性のあるやりとりにより、より良い情報を取得する事が出来る。

では、最も回答数が多かったインターネットについてはどうか。インターネットといっても使い方は個人によってそれぞれである。しかし、**Couchsurfing** を利用しない訪日外国人観光客と利用するそれとでは、使い方に違いが存在する。それは、前者の場合、ウェブ上の個人のブログ記事や乗り換え情報の閲覧など、ウェブ上に制作者が書き置いた情報を受け取ることに主眼を置いている。前者にとっては、そういった一方通行の情報を取得するためのインターネットという位置づけである。先述したとおり、普遍的な情報を受け取る、それゆえに訪問地がいわゆる「観光地」に留まっていると考えられるのである。

一方で、後者にとってインターネットとは異なる位置づけを持つ。それは、双方向のやりとりとしての場、情報交流の場としてのインターネットという位置づけである。たしかに、前者のような使い方をすることも当然ある。しかしながら、それだけには留まらない。そもそも **Couchsurfing** とはインターネットを通して使用するサービスである。後者のインターネットの使い方とは、同時に **Couchsurfing** の利用も考えられる。このサービスが多くの人々に支持されているのは、ただ、家に泊めてください、という要望であったり、お茶しませんかなど、直接会うためのアポイントメント取りのサービスではないところである。利用者が気になっている場所、地域などを検索すれば、現在その場所、地域に住んでいる利用者、現在その地域にいる他の旅行者で **Couchsurfing** の利用者を検索することができるのである。そこで、利用者たちはメッセージを送信し、実際のところ行ってみてどうだったのか、他に良いところはないかなど、互いに情報交換をするのである。個人のやりとりだけではなく、よりオープンなやり取りもある。**Couchsurfing** には各コミュニティーが存在する。コミュニティーとは、共通の趣味、関心を持つ利用者が **Couchsurfing** 上で情報交流をするほか、各自おすすめの場所や経験など、情報交流とリコメンドのやりとりをする場である。そういった情報の双方向のやりとりの場として **Couchsurfing** があり、そのやりとりは他のウェブサービスに波及する。**Facebook** がその典型ではないだろうか。**Couchsurfing** は主にメールでのやりとりであるのでリアルタイムでのやりとりが難しく、幾分かタイムラグは避けられない。しかしながら、**Facebook** にはリアルタイムでやりとりが可能なチャット機能が備えられているのである。であるから、他のウェブサービスと

上手く使い分けながら Couchsurfing 利用者は単なるウェブ上の情報を受け取る場だけではなく、双方向のやりとりの場、情報交流の場としてインターネットを位置づけているのである。

以上述べたように、Couchsurfing とは実際に会い、そして泊めてもらうというだけではなく、他者からのリコメンドがなされる場、同時に情報交流の場としても機能しているという事が理解できる。その結果として両者の東京滞在中における訪問地に関してこれだけの違いが出たのだと言える。

5.3. 個々に合ったリコメンド機能としての Couchsurfing—Miki Masato 氏へのインタビュー

Couchsurfing として約 300 人の Couchsurfing 利用者を Host、つまり、受け入れてきた経験を持ち、自身も、欧州 23 カ国、東南アジア各国で利用し、現地人の自宅に泊まってきたという豊富な経験を持つ Masato 氏にインターネット通話によるインタビュー調査を実施した。それをもとに、前項ではあまり触れた、リコメンド機能としての Couchsurfing について触れたい。

まず、個々に合ったリコメンド機能としての Couchsurfing とはどういうことか。前項で述べた、他者からのリコメンドがなされる場、同時に情報交流の場ということがまさにそれなのであるが、より詳しく、私自身の体験と Masato 氏の事例をもとに明らかにしたい。

私自身の体験では、私が Host として受け入れていた日本の建築と温泉の文化に興味があるというドイツ人に、私は群馬県にある四万温泉を紹介した、そこであれば古き良き温泉街情緒とともに、建築としても有名な宿、積善館があるためだ。また、日本の「学生街」と大学キャンパスに興味があるというアメリカ人に対しては、高田馬場や神保町、多磨、そして、八王子を紹介した。個別の大学名は差し控えるが様々な特徴のある各街を見せる事で満足させられるのではないかと考えたからだ。その他にも、スーパーマーケットや個人商店を見歩きたいなど、実に多様な要望が寄せられる。このような体験は Masato 氏にもあり、彼が Host として受け入れてきた多くの Couchsurfing 利用者は、彼に対し、個別に、それもそれぞれに違った事を聞いてくるようである。一例を挙げれば、おいしいお好み焼き屋はどこにあるのか、であったり、有名じゃない寺を教えてくれであったり実に多様である。そういった要望に対し彼は出来るだけ答えるようにしているようである。このような体験は多くの Host として受け入れる側の Couchsurfing 利用者がしていることであろう。彼らが要求することの多くは私たちが予想だにしていなないことである場合が多い。このような要望に対し、私たち Host がリコメンドを提供することで彼らは当初は訪れる予定になかった場所にまで足を運ぶのだ。その結果が Couchsurfing を利用する訪日外国人観光客の

東京滞在中における行動範囲の広がりという形であらわれていると言えよう。

以上述べたように、多様な個々の要望に合ったリコメンドを提供する事により訪問する場所は広がりを見せるのである。こういった Couchsurfing でいうところの Host を観光業界で担う事が出来るのはやはりホテルの従業員であろう。

6. 結論

昨今、訪日外国人観光客の誘致に際して、Wi-Fi の重要性ということは声高に叫ばれている。しかしながら、Wi-Fi を整備するという事ばかりにとらわれるべきではない。Wi-Fi が重要であるということが一般に認知されている今だからこそ、整備された後の事を考える必要がある。その中で Couchsurfing というサービスは示唆的なものを提供してくれている。Wi-Fi が整備され、訪日外国人観光客が簡単にインターネットにアクセスすることが可能になっても彼らが本当に欲しいと思っている情報がインターネット上にはない場合がある。そのようなときに、彼らの、多様で、ある種奇抜な個々の要望に対応出来、彼らを納得させることのできるリコメンドを提供可能な地域の情報プロフェッショナルのような人物がホテルのフロントにいればどれだけ彼らは心強いと思うだろうか。我が国の Wi-Fi 整備後の備えとして、地域の情報プロフェッショナルとしてのホテル従業員の養成が必要であると私たちは考える。

脚注

1 門川市長記者会見 (2012 年 7 月 4 日)『京都市公衆無線 LAN 整備事業「京都どこでもインターネット」KYOTO_WiFi(キョウトワイファイ)の実施について』京都市情報館 <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000124544.html>

2 無線 LAN と WiFi はどちらも無線通信を利用してデータの送受信を行う LAN システムという点では同じである。無線 LAN と Wi-Fi の違いは Wi-Fi Alliance によって認証を受けているかどうかだけであり、Wi-Fi はその認証を受けることが出来たものである。

3 カウチサーフィン (The CouchSurfing Project) は、インターネット上の無料国際ホスピタリティー・コミュニティーであり、現在世界で最も大きなホスピタリティー・エクステンジ・ネットワークである。英語の「カウチ」(couch, 日本語で言うソファ) とサーフィンを併せた名称である。CS ともいう。海外旅行などをする人が、他人の家に宿泊させてもらう (カウチをサーフさせてもらう)

という形式の相互的な思いやりや信頼による制度である。コミュニティーの軸にしたウェブサイトにて、プロフィール、身分確認制度、メンバー同士の評価等により、世界各地のメンバー間で連絡を取り相談の上で宿泊が決まる。

4 観光庁編(2012)『訪日外国人の消費動向—訪日外国人消費動向調査結果及び分析—平成 24 年 年次報告書』 p18-19

5 観光庁『観光の ICT 化の推進』<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/ict.html> (アクセス日: 11 月 21 日)

6 ジャパン・クラウド・コンソーシアム 観光クラウド WG 事務局『訪日旅行者向け Wi-Fi の提供状況について』<http://www.japan-cloud.org/consortium/wg/wg8.html> (アクセス日: 11 月 19 日) p3

7 Miki Masato 氏,個人 HP, <http://couchsurfingkyoto.blog.fc2.com/>, 2011 年 11 月 25 日 アクセス日

参考文献

T. Hornyak (2012) *Lonely Planet Tokyo*, Lonely Planet

国土交通省(2012)『平成 24 年版 観光白書』

観光庁編(2012)『訪日外国人の消費動向—訪日外国人消費動向調査結果及び分析—平成 24 年 年次報告書』

ジャパン・クラウド・コンソーシアム 観光クラウド WG 事務局『訪日旅行者向け Wi-Fi の提供状況について』<http://www.japan-cloud.org/consortium/wg/wg8.html> (アクセス日: 11 月 19 日)

観光庁『観光の ICT 化の推進』<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kokusai/ict.html> (アクセス日: 11 月 21 日)

門川市長記者会見 (2012 年 7 月 4 日)『京都市公衆無線 LAN 整備事業「京都どこでもインターネット」 KYOTO_WiFi(キョウトワイファイ)の実施について』京都市情報館 <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000124544.html>